



笑顔いっぱい 友達いっぱい

1・2月の
教育活動



1年生 むかしあそびの会 2月5日(水)

地域の方々をお招きして、むかしあそびの会を行いました。めんこやこま、お手玉やけん玉など手取り足取り丁寧に教えていただきながら楽しく遊ぶことができました。「最初はできなかったけど、教えてもらったから上手にできるようになって嬉しかった。」「もっと上手になって、名人になりたい。」と笑顔がいっぱいな一日となりました。



2年生 なかよし遊び 2月12日(水)

2年生が5年生とのなかよし遊びを企画しました。「なんでもバスケット」のルールや司会、ルール説明の担当などを、なかよしグループに分かれて話し合いました。「3回鬼になったら、自分が何が好きなかを発表しよう。」「座っていた席と隣の席には移動してはいけないことにしよう。」と、よりよいやり方を実際に遊びながら決めました。本番では、5年生も一緒になって笑顔で遊ぶことができました。最後には、5年生への感謝の言葉も伝えることができました。



3年生 長屋門見学 1月30日(木)

1月30日に延期になった長屋門見学に行きました。

昔の暮らしについての話を聞いたり、昔の家の見学、昔遊び体験に石臼体験をしたりしました。「昔の人は知恵を使って生活していたんだね。」「今と道具が全然違う。」「遊び方が難しいね。」など、今と昔の違いに体験を通して気付く様子が見られました。



4年生 なかよし遊び 1月31日(金)

4年生がリーダーとなり、なかよし遊びを企画しました。赤グループは体育館、青グループは教室、黄色グループは校庭と各場所にあった遊びを考え、話し合いました。事前にリハーサルを行い「ルール説明は具体的に短く言った方が低学年の子にも分かってもらえそう。」「司会の人立つ位置は真真中で目立つようにしましょう。」と企画した遊びがよりよくなるように練習をしました。本番では、練習の成果を発揮し楽しく終えることができました。



5年生 箏体験教室 1月23日(木)

今年度も市内在住の地歌演奏家 上田 恵子先生をお招きして、箏の体験教室を行いました。子どもたちは、生まれて初めて耳にする生の箏の音色に心を奪われ真剣に学習に取り組みました。体験では「さくらさくら」の始めの部分を一人ずつ順番に弾きました。周りで順番を待ちながら見守っている友達も「七七八 七七八」と弦の番号を歌って応援していました。



6年生 東京見学 2月14日(金)

小学校生活最後の校外学習に出かけました。国会議事堂に着くと、ものすごい数のバスと見学者が列をなしていました。情報によるとこの日だけで5千人もの見学者数だったそうです。見学者が多くて、ゆっくりと見学とはいきませんでした。国会記者がいたり、報道のカメラがあったり、国の重要機関であることは感じているようでした。

午後の科学技術館では、体験を通して、科学の不思議を楽しみました。また、家庭科の時間に計画を立て、早起きして自分で作ったお弁当は卵焼き、ハンバーグなど力作ぞろい、どれもとてもおいしそうでした。



5組 旭区合同学習発表会

毎年2月には、旭区内の個別支援学級が集まって、合同学習発表会が行われます。個別支援学級の子どもたちにとって、宿泊学習に並んで、大きな行事の1つになります。今年度は保土ヶ谷公会堂で、音読劇「なまけ忍者」と「むかしむかしのおかしなはなし」を発表します。

それに先立ち、17日(月)に朝会で校内発表をしました。かなり緊張した様子が見られましたが、最後まで一生懸命発表することができました。



特別合唱クラブ 市音楽会 2月1日(土)

特別合唱クラブが県立音楽堂で開かれた横浜市児童音楽会に参加し、「小鳥の旅」と「シーラカンスをとりにいこう」の2曲を発表しました。ソプラノ・メゾソプラノ・アルトの3つのパートが美しく重なり、ホールに柔らかく響きわたりました。寒くても眠くても頑張って続けた週3回の朝練習の成果を十分に発揮することができました。



特別和太鼓クラブ 発表会 2月12日(水)

12日に6年生の和太鼓クラブ部員が、卒業前にこれまでの活動の成果を全校児童の前で発表しました。クラブは4年生から入部でき、中澤政治先生のご指導で練習を重ねます。6年生は難易度の高い「風車」、そして二小の校歌をに合わせた「未来」を演奏しました。毎年、6年生の姿にあこがれて入る児童も少なくありません。

3月4日は「ミニ発表会」と題し、15時半から保護者の方に向けて発表を行います。この日は4・5年生も演奏します。



児童支援専任より

新しい年を迎えたと思ったのも束の間、あっという間に年度末を迎えました。学習面も生活面も、一年間の総まとめの時期です。

ふり返りというどうしてもできなかったことに目が向きがちです。ここがうまくいかなかった、よくなかったということ課題として次につなげることはとても大切なことですが、自分のマイナス面ばかりが意識されてしまい、前向きな気持ちになりにくいと思います。よかったところにしっかりと目を向け、そのよさを生かしていくための目標が設定できると、より前向きな生活を送ることができるのではないのでしょうか。お子さんとの会話を通してぜひこの一年のがんばりを認め、よいところを伝えていただければと思います。そのことが子どもの自己有用感につながり、新しい年度への意欲につながると思います。